高等学校の校名変更について

高校再編推進室

１　校名の変更理由

「伊那北高等学校、伊那弥生ケ丘高等学校の再編統合」に係る再編実施基本計画に基づく新たな高等学校の設置に伴い、校名の変更を行う。

２　新校名について

伊那北高等学校
伊那弥生ケ丘高等学校　} 統合　→　**伊那高等学校**

３　今後のスケジュール（予定）

・令和９年 11 月議会定例会において高等学校設置条例の改正を提案
・令和 10 年４月１日施行

【参考】　新校名の選定理由等

伊那高等学校

「伊那北高等学校」と「伊那弥生ケ丘高等学校」が百余年にわたり築いてきた歴史と伝統を等しく継承するとともに、両校を支えてきた地域の歩みを象徴する名称として、「伊那高等学校」を校名候補とした。

地域を象徴する「伊那」という言葉に、両校の精神と教育文化を集約することで、上伊那地域の教育・文化の中心として果たしてきた役割を今後も受け継ぎ、地域に根ざした教育を一層推進していく姿勢を示すものである。

また、シンプルで力強い校名を掲げることにより、生徒が全国・世界へ羽ばたく際の確かなアイデンティティとなることを期待している。

さらに、名称に対する投票及び意見募集においては、懇話会構成員、地域住民、中学生、在校生、ならびに両校教職員から「伊那高等学校」への投票が最も多く寄せられ、幅広い世代から親しまれ、受け入れられている名称であることが確認された。こうした地域と学校関係者の支持の高さも踏まえ、新校の名称としてふさわしいと判断した。

（別紙）

校　名　候　補　決　定　の　経　過

１　懇話会の設置　（令和２年 11 月 26 日）

（１）目的　県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため。

（２）構成員　29 名

①　地域の代表（16 名）

自治体関係者（５）、産業界代表（３）、学識経験者（２）、小中学校関係者（３）、地域関係者（３）

②　学校関係者（13 名）

同窓会代表（２）、ＰＴＡ（３）、校長（２）、教職員（２）、生徒代表（４）

２　校名候補決定の経緯

（１）校名公募

①　公募期間：　令和７年８月１日（金）～９月７日（日）

②　応募内容：　校名案と理由

③　応募方法：　応募資格の制限はなく、応募フォーム、郵送または持参

（２）応募状況

①　応募件数：　909 件

応募フォーム：791 件、郵送・持参：118 件(うちイベントによる応募 60 件)

10 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代以上	合計
113 件	68 件	107 件	159 件	181 件	152 件	129 件	909 件
12.4％	7.5％	11.8％	17.5％	19.9％	16.7％	14.2％	100％

②　校名案：　468 件

（３）選考の観点

①　校名は「長野県（　　）高等学校」とする

【次の②～④のうち、１つ以上が含まれていること（すべて含めてもよい)】

②　学校の所在地がわかりやすく、親しみがあり生徒が誇りを持てる名称である

③　伊那北高校と伊那弥生ケ丘高校のこれまでの歴史や伝統などがイメージされている

④　自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦するという学校像が表現されている

（４）一次選考

①　両校の職員で構成する設立準備委員会と高校再編推進室で選考の観点に沿って、468 件から 192 件に絞る。その際に「伊那北」、「伊那弥生ケ丘」及び伊那北高校所在地の呼名「薫ケ丘」などの両校に関連する校名案については、新校としての未来への広がりや新たな可能性が自然に伝わる名称を選びたいと考え、選考の対象としないこととした。

②　更に選考するにあたり、両校職員各６名、県教委６名の計 18 名で３回の校名審査を行う。候補を絞るにあたり「両校の伝統の継承」、「漢字の意味」、「地域性」、「声に出したときの響き」、「品格」等を基準とした。

③　校名候補に対し、商標権等の調査を行い、権利上問題がないことを確認の上、**「伊那」「伊那瑛陵」「伊那学峰」「伊那学陵」「伊那双峰」「上伊那学陵」**の６候補を二次選考の対象とした。

（５）二次選考

①　「懇話会構成員」は１人１票の投票、「地域」「両校の在校生と教職員」には校名にふさわしい候補を３つまで選んでもらう投票及び意見募集を実施した。

②　期間は、「懇話会構成員」の投票は令和８年２月 26 日(木)～３月８日(日)、「地域」「両校の在校生と教職員」の投票及び意見募集は２月 26 日(木)～３月 12 日(木)。

③　懇話会において、投票及び意見募集の結果を踏まえた意見交換を行い、「伊那」を最終校名候補とする方向で懇話会として意見がまとまった。

３　校名選考の検討経緯

（１）第 12 回懇話会（令和４年７月６日）

○　校名検討について意見交換

（２）第 13 回懇話会（令和４年 10 月７日）

○　教育内容や学びのイメージを共有することを重要視し、校名の公募については時期を改めて実施することとする

（３）第 19 回懇話会（令和７年２月３日）

○　校名選考のスケジュールについて意見交換

（４）第 20 回懇話会（令和７年５月 13 日）
　○　校名選考の観点、選考方法、公募について意見交換
（５）第 21 回懇話会（令和７年７月 17 日）
　○　校名募集要項について意見交換
（６）第 22 回懇話会（令和８年３月 18 日）
　①　校名募集結果の報告
　②　一次選考の経過報告
　③　二次選考での投票結果の報告（※参考資料を参照）
　④　「長野県伊那高等学校」を最終校名候補として選定
　⑤　「伊那」に対する構成員の意見
　　・再編する両校もイメージできるシンプルで力強い名前
　　・地域名をそのまま用いた校名は認知されやすく、誇りや一体感を生みやすい

４　「伊那高等学校」を選定した主な理由

「伊那北高等学校」と「伊那弥生ケ丘高等学校」が百余年にわたり築いてきた歴史と伝統を等しく継承するとともに、両校を支えてきた地域の歩みを象徴する名称として、「伊那高等学校」を校名候補とした。

地域を象徴する「伊那」という言葉に、両校の精神と教育文化を集約することで、上伊那地域の教育・文化の中心として果たしてきた役割を今後も受け継ぎ、地域に根ざした教育を一層推進していく姿勢を示すものである。

また、シンプルで力強い校名を掲げることにより、生徒が全国・世界へ羽ばたく際の確かなアイデンティティとなることを期待している。

さらに、名称に対する投票及び意見募集においては、懇話会構成員、地域住民、中学生、在校生、ならびに両校教職員から「伊那高等学校」への投票が最も多く寄せられ、幅広い世代から親しまれ、受け入れられている名称であることが確認された。こうした地域と学校関係者の支持の高さも踏まえ、新校の名称としてふさわしいと判断した。

【参考資料】　二次選考での投票及び意見募集の結果

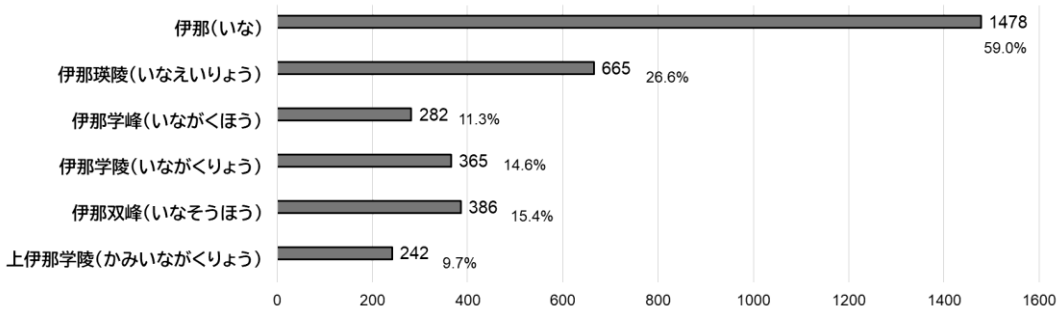
●懇話会構成員（29 人）

伊那	伊那瑛陵	伊那学峰	伊那学陵	伊那双峰	上伊那学陵
いな	いなえいりょう	いながくほう	いながくりょう	いなそうほう	かみいながくりょう
22	1	1	3	2	0

○全体（中学生、両校在校生及び職員、地域）最大３つまで

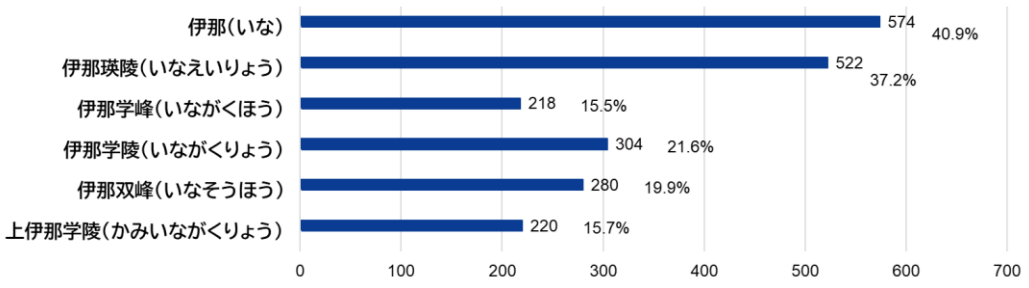
(1) 回答　応募フォーム:2,500 件、郵送:４件　合計 2,504 件

(2) 結果



○全体のうち上伊那地域の中学生　最大３つまで

(1)　対象　上伊那地域 14 校の中学校　１、２年生（在籍 3,087 人）

(2)　回答　応募フォーム:1,405 人（回答率 45.5%）

(3)　結果